

地方独立行政法人大牟田市立病院

第1期中期目標の期間における業務実績に関する評価結果

第1期（平成22年4月1日～平成26年3月31日）

平成26年8月

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会

委員長

薬師寺 道明

はじめに

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会は、地方独立行政法第30条の規定に基づき、地方独立行政法人大牟田市立病院の第1期中期目標期間（平成22年度から平成25年度）における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年8月31日に決定した「地方独立行政法人大牟田市立病院に対する評価の基本方針」及び平成26年1月17日に決定した「地方独立行政法人大牟田市立病院の中期目標期間評価実施要領」に基づき評価を行った。

<評価実施要領（抜粋）>

○項目別評価（大項目）・・・ 中期目標期間における達成状況を5段階による評価を行う。

S：中期目標を大幅に上回り、特に評価すべき達成状況にある

A：中期目標どおり達成している

B：中期目標を概ね達成している

C：中期目標を十分に達成していない

D：中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項がある

○全体評価・・・項目別評価（大項目評価）の結果を踏まえ、記述式による総合的な評価を行う。

<地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 委員名簿>

	氏名	役職等
委員長	薬師寺 道明	久留米大学名誉学長
副委員長	丑山 優	九州情報大学経営情報学部学部長
委員	小塩 美恵子	大牟田医師会看護専門学校 主事
	下川 泰	元全国自治体病院協議会副会長
	西村 直	大牟田医師会 顧問
	福田 猛	帝京大学福岡医療技術学部教授

目 次

1 全体評価	1 ページ
2 大項目評価	
第1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」	4 ページ
第2 「業務運営の改善及び効率化に関する事項」	4 ページ

【別 紙】 「第1 期中期目標期間に係る業務実績報告書」

1. 全体評価

1) 評価結果 (全体)

第1期中期目標期間における業務実績に関する大項目評価については、全項目において評価A(中期目標どおり達成している)と判断した。

この大項目評価の結果を踏まえ、第1期中期目標期間の4年間において、地方独立行政法人の特長である機動性・柔軟性・効率性を遺憾なく発揮した組織づくりを行い、公共性及び経済性を両立させ得る健全経営を構築した。

また、中核病院として、地域の医療機関との医療連携や良質で高度な医療を提供するための体制強化など、第1期中期目標の骨子である「住民及び地域の医療機関から愛され信頼される病院となる」へ前進したことから、「全体として中期目標どおり達成している」と判断する。

ただし、医療・介護の連携強化の法の施行や人口減、患者数の漸減傾向など、医療を取り巻く環境の変化に適応した法人の方向性について、再検討を要する時期に來ていると認識する。

2) 判断理由

法人に求められた地域の医療機関との医療連携や良質で高度な医療を提供するため、平成24年7月には「地域医療支援病院」の承認を受け、また、地域の医療機関との役割分担のもと、がん診療、救急医療、母子医療をはじめ手術が必要な患者の入院治療を中心に医療の提供をした。急性期を脱した患者に対しては、逆紹介を行い地域の中核病院としての役割を果たした。

また、積極的な職員採用による7対1看護体制を安定的に行い、看護の充実、就労環境の改善に取り組んだ。職員の教育研修として、職務職責に応じた階層別研修の整備や他の医療機関との交流研修制度、認定看護師の資格取得のための環境整備など、職員の質の向上を図り、教育研修体制を多方面から構築し、離職率の軽減につなげた。

人事管理としては、独法化以降早期の人事給与制度の構築を目標として示していたが、平成23年4月から法人独自の人事給与制を導入し、また人材育成を目的とした人事評価制度導入により、人事評価・昇給等に反映させ、職員のモチベーションの向上を図った。

病院の経営体制としては、院長のリーダーシップにより、病院現場に即した効果的・効率的な運営を行える組織を構築した。こうした取組の結果、診療単価の上昇による増収と徹底した費用削減の取組と合わせて、独法化以降、単年度黒字が継続できたことなど、地域として人口減等のマイナス要因が大きい中、安定的な病院経営ができていくことを評価する。

3) 大項目ごとの達成状況

① 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

事業年度評価結果			第1期中期目標 期間の評価
H2.2	H2.3	H2.4	H2.5
A	A	A	A

<特筆すべき取組>

- ・インフォームド・コンセントの充実（医師・看護師・薬剤師等専門職による説明の強化）
- ・医療安全対策の強化（PDA端末の導入・離床センサーマットの導入）
- ・高度医療機器の導入（MRI更新・核医学検査装置購入など）
- ・地域がん診療連携拠点病院としての体制強化（一体的ながん診療体制の構築）
- ・地域医療支援病院の承認（平成24年7月27日）またその活動
- ・地域医療機関との役割と機能の分担（地域医療連携システムの運用）

<課題、改善を期待する事項について>

- ・新規入院患者数は、漸減傾向にあるため、医療圏における患者の動向等を迅速かつ的確に把握・分析し、患者数に見合う病棟編成や体制変更等、病院の方向性を検討いただきたい。
- ・地域がん診療連携拠点病院の認定更新が、平成27年3月となったことから、新指針に基づく認定更新への体制整備及び充実を図っていただきたい。
- ・救急医療の取組については、「ことわらない救急」を旨とするため、救急専門医・虚血性心疾患に対応できる医師の確保に努力していただきたい。
- ・切れ目のない医療を提供するため、医療・介護機能再編の方向性を見据えた地域医療連携の体制のさらなる強化を図っていただきたい。

② 業務運営の改善及び効率化に関する事項

事業年度評価結果		第1期中期目標 期間の評価	
H22	H23	H24	H25
A	A	A	A

<特筆すべき取組>

- ・ 安定的な看護体制の確保（平成22年5月から7対1看護体制の確立）
- ・ 人事給与制度・人事評価制度の導入（職員モチベーションの向上、時間勤務の削減等就労環境の改善）
- ・ 職務職責に応じた階層別研修の整備
- ・ 認定看護師等の「資格取得助成制度」の整備（高度な資格取得のための費用負担を軽減）
- ・ 接遇研修の実施（管理監督職対象の研修後、研修受講者が講師となり一般職へ接遇研修を実施）
- ・ 病院機能評価の最新バージョン認定更新承認（平成26年3月受審）
- ・ 業務改善として経費削減の実施（薬品卸業者の1者化によりスケールメリットを活かした削減）
- ・ 患者サービスの実施（トイレカーペットの張替え、トイレのリニューアル、コンビニエンスストアの導入）
- ・ 第三者による病院業務への意見聴取のため「病院モニター制度」を導入（外来のコンシェルジュ配置、サイン表示改善を実施）

<課題、改善を期待する事項について>

- ・ 放射線診断医の確保及び放射線治療医の常勤化、また、院内保育所を活用して女性医師の確保に努力していただきたい。
- ・ 病棟における三人夜勤体制の拡大に努め、就労環境の改善を図っていただきたい。

4) その他

地方独立行政法人制度の特長を活かし、理事長を中心に職員が丸となって経営改善に取り組んでおり、その成果及び努力を高く評価する。

第1期中期目標期間の業務実績については、医療面・経営面とも、さまざまな取組を行い、成果を出している。独法化から4年間、手探りの状態から、他都市の病院の参考に値する様な改革を行うことができたことは、職員の努力はもちろん、地域関係団体の協力が得られたことが大きな一因と思われる。

また、今後の病院の大きな計画として、救急病棟等の増改築に取り組むことが報告されたが、医療の環境としては、厳しい向かい風の中に入ると思われる今般であるにもかかわらず、地域の中核病院としての役目を果たそうとする姿勢は、理事長をはじめとするスタッフ全員の地域医療に対する意欲と住民への責任を果たす信念に基づくものと思慮する。第2期中期目標期間の活躍に期待する。

2. 大項目評価

第1「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」	事業年度評価結果				第1期中期目標期間の 評 価
	H22	H23	H24	H25	
	A	A	A	A	A

第2「業務運営の改善および効率化に関する事項」	事業年度評価結果				第1期中期目標期間の 評 価
	H22	H23	H24	H25	
	A	A	A	A	A

【別 紙】 「第1期中期目標期間に係る業務実績報告書」

